

ふるさと米子 探検隊

第14号 米子の年中行事の巻 2010年3月30日



米子の年中行事を調べてみよう!

編／発行 米子市立図書館

TEL0859-22-2612 FAX0859-22-2637

<http://www.yonago-toshokan.jp>

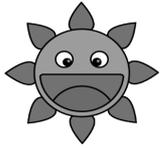
お正月の注連縄飾り、3月のお雛様、夏の七夕、お盆の行事、11月の紐落とし（七五三のこと）、1年のおわりの大そうじやもちつき、大晦日の除夜の鐘。みんなも良く知っている、こうした季節ごとにくり返される行事のことを年中行事といいます。年中行事には、むかしの生活の習慣を残しているものもあります。また、ホワイトデーやクリスマスのように、新しく取り入れられたものもたくさんあります。

探検隊14号では、米子地方で今も続けられている年中行事を調べ、行事の歴史や意味について考えます。探検隊14号は、柏木さん （米子市のイメージキャラクター、ヨネギーズの友人）が米子のことを教えてくれます。いっしょに年中行事探検に出かけよう！

探検隊の参考資料

図書館には、みんなの探検を助けてくれるたくさんの資料があります。

- ・「新修米子市史 第5巻 民俗編」米子市史編さん協議会／編
米子市 2000 Y224／卅
- ・「因伯の民俗歳時記」坂田友宏／著 伯耆文化研究会 2004 Y38／S14-8
- ・「米子の民話散歩」川上迪彦／著 今井書店 2006 Y388／加
- ・「年中行事を五感で味わう」山下柚実／著 岩波書店 2009
YA/081/17/645 岩波ジュニア新書
- ・「『年中行事から食育』の経済学」佐々木輝雄／著 筑波書房 2006 383／卅
- ・「日本の年中行事」1月・2月～11月・12月（6冊）深光富士男／著 学研
2004 386／カ（児童）
- ・「日本のしきたり絵事典」深光富士男／著 PHP研究所 2008 382／加（児童）
- ・「学習に役立つわたしたちの年中行事」1月～12月（12冊）芳賀日出男／著
クレオ 2006 386／カ（児童）



年中行事こよみと暦しんれき 新暦きゅうれきと旧暦のお話



古くから伝わる年中行事は、「旧暦」とよばれる暦（カレンダーのこと）が使われていたときにはじめられています。日本が旧暦から新暦に変わったのは、1872（明治5）年のことです。とつぜん暦がかわり、この時はいろいろこまったことがおきたそうです。

旧暦（陰暦ともいわれます）は、中国で使われていた「太陰太陽暦」という暦が、6世紀ごろに日本でも使われはじめたものです。月は地球のまわりを29日半でまわります。三日月、上弦の月、満月など、月のよび方はいろいろありますね。旧暦は、このように夜空に見える月の形で、おおまかな日づけがわかって便利でした。しかし旧暦の月日の数え方は、地球が太陽のまわりをひとまわりする時を1年とする新暦（太陽暦ともいわれます）とくらべると、11日も短いものになってしまいます。そこで閏年うるうどしという、1年が13カ月ある年を作ったり、二十四節季にじゅうしせつきというものを定めたりいろいろな工夫がされました。

二十四節季を使った旧暦は、農作業などの仕事にはとても便利なものでした。今でも東アジアの多くの国々には、この暦を使っています。日本では新暦が使われ始めて100年たつうちに、だんだんと年中行事も新暦のカレンダーによってされるようになりました。

おぼ 覚えてみよう二十四節季!!



春

立春 雨水 啓蟄 春分 清明 穀雨



夏

立夏 小満 芒種 夏至 小暑 大暑



秋

立秋 処暑 白露 秋分 寒露 霜降



冬

立冬 小雪 大雪 冬至 小寒 大寒

1月 お正月 (睦月)

1月1日は正月「元日」です。年賀状に使う「元旦」もおなじ意味があります。正月は元日の行事「大正月」と、15日ごろの「小正月」にわかれていろいろな行事が行われます。お正月は、今でもいちばん大きな年中行事です。

むかしは、人々にしあわせをくださる「年神様 (年徳神)」が元日に家に来られると信じられていました。豊作の神様であり、祖先を守ってくださる神様でもありました。むかしの人は、お正月に年神様から新しいたましいをもらおうと考え、家族みんなが正月にいっしょに年をひとつとる、とされていました。「数え年」という年齢の数え方が、つい最近までされていました。

はつもうで
初詣
かみびら
鏡開き

米子市正月マラソン (元旦)

初夢

お年玉

かきぞ
書初め

かるた

でぞ
消防出初め式

成人の日 → 米子市の成人式は1月3日



七草かゆ

1月7日には七草がゆを食べます。
「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ、これぞ七草」

声に出して読んで七草をおぼえよう。春の七草は、病気になるようにお祈りするという昔の中国から入った習慣といわれています。おせち料理を食べすぎたところにちょうど良いですね。

1月 小正月



旧暦では立春 (新暦の2月ごろ) を正月とする考えもあります。日本では1月の満月を正月にするという考えもありました。それが1月15日の小正月です。

小正月の代表的な行事はトンドさんです。1か所に正月かざりを集めて燃やし、年神様が火のけむりに乗って帰られるといわれていました。トンドさんは、ドンド焼き、トンド、サイト焼き、三九郎焼き、オンベ焼きなど、地方によってよび方が違います。

燃やすものも門松、しめ飾り、書初め、古いお札など、いろいろなものを燃やします。





トンドさんには、竹ざおの先に、もちやいもをさして焼いて食べる楽しみもあります。火にあたると若返るとか、おしりやせなかをあぶると長生きするとか、やいたものを食べるとかぜをひかないといわれています。前のページと左の写真は、米子市下新印地区のトンドさんです。めでたい飾りつけに特徴があります。市内上和田では、年徳神をのせて町内を歩く神輿が有名です。



2月 (如月)

二十四節季では、それぞれの季節のはじまりを立春、立夏、立秋、立冬とよんでいました。4つの季節を分けるさかい目のことです。この日の前日を節分とよびました。また、節分とは関係なく、追儺という行事が室町時代から宮中などで行われるようになりました。大晦日に豆をまいて鬼を追い払う行事です。この豆まきと立春が結びつき、**節分の豆まき**として全国的な年中行事となりました。いった大豆をまきますが、数え年の数だけ食べると、悪いことが起こらず、健康にすごせるといわれています。

恵方巻 (節分に食べると縁起が良いとされる太巻き、新しい行事です)

針供養 (8日、12月にする地方もあります)

建国記念の日 (11日)

バレンタインデー (14日、イギリスで19世紀おわりごろから、好きな人にチョコレートをおくる習慣がはじまりました)

3月 (弥生)

3日の**ひな祭り**は桃の節句ともいわれていました。むかしの風習では、人形をつくり、自分の体をなでて、けがれやわざわいを人形にうつし、自分の身代わりに川や海に流していました。平安時代に貴族のあいだに始まったといわれるひな祭りも、江戸時代には女の子の節句と決められ、壇飾りのあるりっぱな人形がつくられるようになりました。



鳥取市用瀬町の流しびなは、古い形を残したものとして有名です。上の写真で、壇飾りをきれいに並べたお宅では、男の子のために、天神様の人形もかざったりするそうです。(米子市日下)



ホワイトデー (14日) **涅槃会** (15日、お釈迦様のなくなった日)
 春の彼岸 (春分の日を中日とした前後3日間) **春分の日** (20日ごろ)

4月 (卯月)

エイプリルフール (1日、四月馬鹿。ヨーロッパの古い習慣といわれていますが、由来はよくわかりません) **米子桜まつり** (4月上旬)
花まつり (8日、お釈迦様の誕生日)



勝田さんの春の例大祭

15日が春の例大祭。勝田神社については、探検隊第3号にくわしく紹介しましたね。前日のよい祭りには、おおぜいの参拝客でにぎわいます。境内には写真のようにたくさんさんの屋台もでます。米子では、春の勝田さんの祭りのところにコタツをしま



城山大師春祭り (21日、米子の城山には四国八十八か所の霊場があります)
子ども読書の日 (23日、毎年このころに米子市立図書館でも楽しいイベントをします)
昭和の日 (29日) **図書館記念日** (30日、図書館法という法律ができた日です)

5月 (皐月)

米子つつじまつり (4月下旬から5月上旬)
八十八夜 (2日ごろ、立春から数えて88日目。農作業の大事な節目の日です)

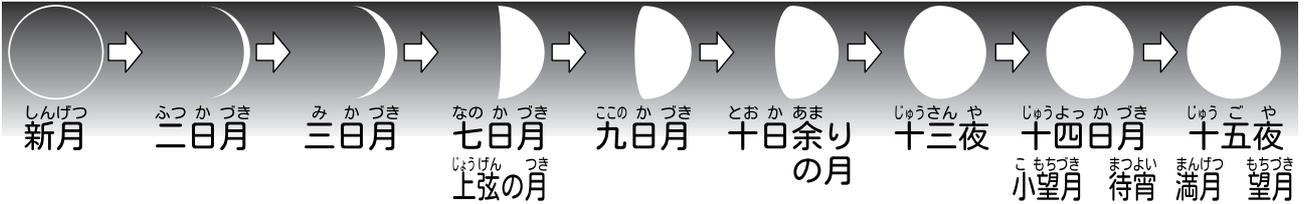


日吉神社の神幸神事

3日、米子市淀江町西原にある日吉神社の春の例祭が神幸神事です。米子市の無形文化財に指定されています。大名行列をまねたこの神事は、おおぜいの人々が神輿をかつぎ、見物客でにぎわいます。まつりのかげ声から、よいとまかせ、しんじさん、ともよばれています。



憲法記念日 (3日) **みどりの日** (4日)
こどもの日 (5日、端午の節句)
母の日 (第2日曜日)



6月 (水無月)

衣替え (1日)

父の日 (第3日曜日)



輪くぐりさん

写真は大篠津の諏訪神社の輪くぐりさん。1年の半分がすぎた6月の30日、神社の氏子(うじこ)をくぐらせます。この茅の輪(ちのわ)は42歳の厄年(やくどし)の氏子(うじこ)が作ります。この日までに人型(ひとがた)に切った紙(かみ)を氏子(うじこ)にくばり、この日持ち寄った人型(ひとがた)は唐びつ(からびつ)に入れて、あとで神主(かみ)さんが茅の輪(ちのわ)といっしょに海(うみ)に流す(やくよ)そうです。厄除(やくよ)けの年中行事(なかつしご)です。



夏至 (22日ごろ、1年中で昼がいちばんながい日)

7月 (文月)

海の日 (第3日曜日)



七夕祭り

7日は七夕。願いごと(ねが)を書いて(か)きささ竹(あざき)にむすびます。むかしは小豆飯(あずきめし)や瓜(うり)などを供(そな)えて祭り、7日の朝川(あさ)や海(うみ)に流(なが)した(う)そうです。米子(こ)の旧市内(ふるいち)では、ささ竹(あざき)を川(が)に流(なが)さず、内町(うちまち)の宇気(うけ)・河口(がわぐち)神社(じんじゃ)にもって(も)てい(い)きます。旧加茂川(ふるかものがわ)がささ竹(あざき)でいっばい(いっぱい)になると、舟(ふね)が動(う)かなくなる(な)からだと伝(つた)えられて(い)ます。



皆生温泉海水浴場海開き (七夕のころ)

米子市民レガッタ (中旬、ボート競争(きょうそう)のこと)

全日本トライアスロン皆生大会



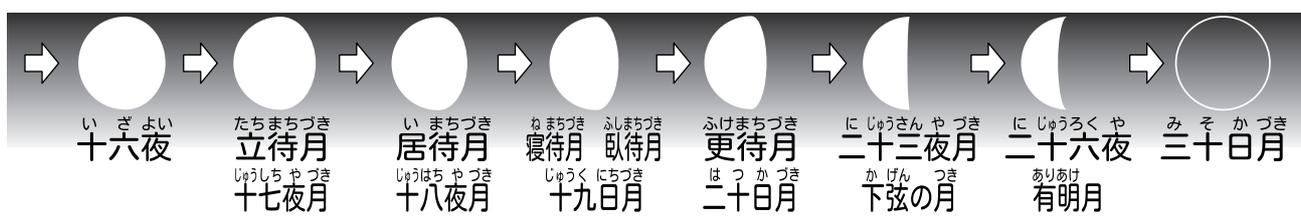
たくさんの米子市民が、ボランティアでこの大会を手伝います。

水泳、自転車、マラソンの3種類(さんしゆ)をあわせた競技(きやうぎ)です。日本で初めての本格的なトライアスロンは1981年8月20日、皆生海岸から始まりました。

毎年7月中旬に開かれています。



(訂正します。
宇気・河口神社の七夕祭りは、
8月の行事でした。)



8月 (葉月)

米子がいな祭り (7月下旬から8月上旬)

盆 / 盂蘭盆会 (13日~16日)



お盆は、祖先の霊をおむかえしてなぐさめる行事で、仏教の教えと、日本に古くからある祖先を大事にする信仰がむすびついた、正月と同じくらい大切な年中行事です。キュウリはご先祖さまの霊が乗る馬。ナスは荷物をはこぶ牛とされて、盆棚にかざります。お盆には家族でお墓参りをします。300年以上の伝統を持つ**米子盆踊り**など、各地で盆踊りの行事も行われます。



加茂川まつり / 地蔵盆

旧加茂川ぞいの糞町から灘町にかけて、川岸にたくさんのお地蔵さんがあります。24日が地蔵盆で23日がよい祭りです。今では加茂川祭りとして、この地区のお盆行事となっています。お地蔵さんの数は36もあるそうです。



9月 (長月)



上淀の八朔綱引き

八朔とは旧暦の8月1日のこと。昔の農作業では、このころから稲の刈り取りの準備をしました。上淀の天神垣神社の境内で、町内から集めたワラで、「クチナワさん」と呼ばれる大蛇をつくります。50mもあるこのクチナワさんで綱引きをし、豊作を占うのだそうです。毎年9月初めの行事です。



敬老の日 (第3月曜日)

お月見 (18日ごろ)

秋の彼岸 (秋分の日を中日とした前後3日間)

秋分の日 (23日ごろ)

10月 (神無月)

衣替え (1日)

体育の日 (第2月曜日)

勝田さん秋の例大祭 (15日)

11月 (霜月)

文化の日 (3日)



10月末、日下神社の例祭にて

七五三／紐落としの祝い (15日ごろ)

病院もなかった昔は、赤ちゃんを育てるのは大変なことでした。子どもたちが健康に育つことを願う行事が七五三です。七・五・三にはそれぞれ意味があります。米子では、数え年4歳の子を祝い、紐落とし、といいます。15日ではなく、地元の神社の例祭に合わせてするところも多いようです。



龍宮さん (15日、弓ヶ浜の海岸にある祠の祭日)

勤労感謝の日 (23日)

12月 (師走)

冬至 (22日ごろ、1年中でいちばん昼が短い日、ゆず湯に入ります)

クリスマス (25日、キリスト様の誕生日)

すす払い (27日ごろ、大掃除のこと)



年末にはいろいろな正月準備をします。かどまつ門松やしめ縄飾りを用意したり、餅つきをしたりして、お正月の準備をします。しめ縄は神聖な場所につけて、神様の目印とするものです。新年にはそれぞれの家の玄関や神棚に飾られます。写真のお宅では、ほしがき干柿・コンブ・スルメ・タイ・神葉(海草のこと)なども一緒に飾るそうです(米子市日下)。



こんにちは。淀江生まれの柏木です。
わたしの顔が出てくる場所が、米子市の有名な年中行事です。

みんなの住んでいる町には、このほかにもたくさんの年中行事があるはずですよ。どんなものがあるのか、調べて記録してみよう！